

佳作

共に成長していくこと

三郷市内中学校 2年

匿名

私は妹が大好きだ。いつも人に自分の可愛い妹を自慢している。ただ、私たちは仲がいいというわけではない。お互いがお互いにかみ合わないことが多く、よくすれ違っている。私と妹の間には心の壁があると最近感じるようになった。そして、その心の壁をきずいてしまったのは私だということに今更やっと気づいたのだ。

私の妹は障害を持っている。人より成長が遅く、小学三年生になった今でも言葉を話すことが出来ない。妹は私が幼稚園の年中の頃に生まれた。生まれたときは心の底からうれしかった。そしてたくさん可愛いがってあげようと思った。しかし、生まれた次の日、気づいたら妹は入院していた。妹が退院した頃にはもう十分に成長していた。その姿を見た時、私は少し悔しかった。けれど同時に、これからたくさん遊んであげたい、妹のお世話をしたいというこれからの妹との生活にとてもワクワクしていた。

妹は成長が遅い。妹が退院してしばらくたち、私も妹のお世話をするようになっていた。妹が成長が遅いこと、分かっていたはずなのに私はそれに対しだんだんイライラするようになっていた。まだ幼かった私は自分の感情を今のようにコントロールできていなかったのだ。今思えば、妹と私の中に心の壁が生まれるようになったのはこれがきっかけだったのだと思う。それでも私は妹のことが大好きだった。だからこそ、その分妹が私の言うことを聞いてくれなかったのがとても悔しかった。そしてこのような積み重ねが私と妹の間に心の壁をつくってしまったのだ。そんな私を変えてくれるきっかけとなったのが家族みんなで歩いておでかけに行ったときである。

妹は人におんぶされることが大好きだ。その散歩の日も私は妹にねだられ、久しぶりに妹のことを担いだ。久しぶりにもつ妹はとても重くなっていた。妹は楽しそうに笑っていた。その笑顔を見た時私は、自分の愚かさに改めて気づいた。私は妹の成長をちゃんと見れていなかったのだと。私は、妹に自分の感情をおしつけてしまっていたのだと。

妹は成長が遅い。しかし、遅いだけであり、妹は成長している。分かっていたはずなのにちゃんと気づけていなかったのだ。私は、それに気づいたとき、本当に恥ずかしいと感じた。本当はちゃんと学校に通い、成長していた妹に対して、勝手にイライラして自分の感情をおしつけていたのだ。

成長しない人間はいない。今回の経験を通して改めて気づくことができた。障がい者だとしてもそれぞれが何かしらの経験を積んで、学び、成長しているのだ。妹と過ごして、私はそれをゆっくりとでも支えていける、見守っていける人間になりたいと思った。妹との間にできてしまった壁もゆっくりと歩み寄って少しずつなくしていきたいと思う。そして、この努力がお互いが共に成長していける世の中になっていくと、私は信じている。